

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>プロジェクト目標「事業地の住民が、八角メインのアグロフォレストリーの技能を習得し、アグロフォレストリーの農場を維持・運営できるようになる」については、新型コロナウイルス感染拡大および政変の影響による困難な状況の中、ワークショップ形式に代わる方法での研修を実施し、八角栽培、有機栽培、アグロフォレストリーについての知識を参加者が習得することができた。また、当団体の Field Team による現地責任者や農民との継続的なコミュニケーションにより、その知識をさらに深めていくことができた。ただ、治安の悪化からいまだに移動が制限されているところも多く、植林等の技術移転については状況の改善を待って、できるだけ早い時期に実施したい。上位目標の収入安定・向上については、植林活動が再開できるようになり次第、あらためて取り組んでいく。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新育苗場の建設 カヤー州ロイコー、チン州ハッカ、カチン州ミッチーナにおいて、育苗場を新設した（2020年12月までに完成）。</li> <li>2. 八角種子の購入、輸送 中国国境で八角種子の買い付けを行い、ピンウーリンに設置した種子配送準備施設に輸送した。その後、品質保持のため冷蔵ボックスで各地に種子を輸送した。</li> <li>3. 八角苗の育成 ミンダッ、ピンウーリン、ミッチーナ、ロイコー、ハッカの各育苗場で八角種子のカップ入れ作業を行い、育苗を行った。</li> <li>4. 植林 植林可能な土地での安全が確認されたことから、ロイコー育苗場周辺のみ、250本の植林を行った。</li> <li>5. 研修資料の準備 在宅での研修に変更したため、必要な資料を受講者に送付するため、以下の準備を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講師との研修内容確認、調整、</li> <li>● 地域責任者と参加者確認、研修実施方法の確認</li> <li>● 研修資料（マニュアル）作成</li> <li>● 研修資料（映像）作成（撮影機材手配等の準備含む）</li> <li>● 研修試験作成</li> </ul> </li> <li>6. 研修の実施（在宅） 地域責任者、難しい場合は各地域の農民が代理となって、各地域の受講者に研修資料を配布し、各自在宅で研修を行った。</li> <li>7. フィールドチームによるフォローアップ（遠隔） 通信状態の様子を見ながら、週2-3回を目途にフィールドチームから各育苗場責任者、あるいは農民に直接連絡を取り、現状の確認を行った。口頭での報告の他、写真を送付してもらうなどして確認した。</li> </ol>
<p>(3) 達成された成果</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本事業対象地の農民に、田畑（育苗場・植林地）の維持・管理にかかる技術が定着する <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 植林する苗の育成 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) カヤー州ロイコー、チン州ハッカ、カチン州ミッチーナにおいて、育苗場を新設した。ミッチーナでは、給水システムに課題があったことから、井戸の掘削作業から行った。</li> <li>(2) 八角種子の品質を担保するため、中国国境で買い付けに際しては、半年以上交渉・確認を行い、ピンウーリンに設置した種子配送準備施設に輸送した。本来であればパートナー団体スタッフの手によって輸送するところコロナ禍と政変の影響により移動の困難が生じたため、輸送業者に依頼し、品質</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

を保持するため冷蔵ボックスで各地に種子を輸送した。(1月末までにミンダッ、ハッカ、ロイコー、3月末までにピンウーリン、ミッチーナへ輸送完了)

- (3) 順次各地域でそれぞれ 20,000 粒の八角種子のカップ入れ作業を行い、雨季(6月~10月頃)前の植林を目指し、育苗場で維持管理を行った。各地の苗の育成、維持管理状況は以下の通り。

ミンダッ：100%発芽した。政変以降治安が悪化し、管理責任者が安全確保のため地域を離れている。発芽率は、責任者の家族が安全を確認し、約1か月に1回程度地域に戻り確認を行っている。(最近は今年1月に確認)

ピンウーリン：発芽しなかった。理由は、種子の品質、そして種子のカップ入れ時期が遅れたためと推測される。

ミッチーナ：発芽率1%。ピンウーリン同様、主審の品質とカップ入れの時期が遅れたためと推測。現在は、発芽しなかったカップを活用し、アグロフォレストリー用コンニャクの苗を育成している。

ロイコー：90%発芽した。すでに育成した苗(250本分)の植林地を安全な場所で確保できたため、植林を行った。

ハッカ：90%発芽した。政変以降内戦状態が悪化し、育苗場責任者は移動が困難になり、育苗場を訪問できていない。

#### 1.2 植林地の管理

2020年2月に発生した政変以降、地方において内戦状態となり治安が悪化。植林予定地でも同様の状況となったため、特にミンダッ、ロイコー、ミッチーナにおいては、植林に向けた苗木の維持・管理はできているものの、事業期間内に植林を行うことができなかった。

#### 1.3 新規植林および On the Job Training (OJT)

育成した八角の苗を近隣農家に配布し、植林する予定であったが、上記状況により新規植樹および OJT の実施ができなかった。

#### 1.4 育苗に関する技術向上

育苗に関する技術については、1.1に既述したように、各地域において八角種子のカップ入れ作業までは実施することができたことから、すでに知識や技術を持つ関係者から新規に参加した農民に対して、OJTによる技術の伝達をすることができた。今後も状況を見ながら補完的に OJT を行い、技術移転をしていきたいと考えている。

### 2 本事業対象地の農民のアグロフォレストリーに関する知識および技能が向上する

ロイコー、ハッカ、ピンウーリンにおけるワークショップは、新型コロナウイルス感染拡大と政変の影響により、対面での実施が困難になったため、講師による講義の動画とテキストを対象農民に送付し、在宅での研修を実施した。研修内容は、①本事業の趣旨・目的説明(当団体組織概要説明)、②八角、トウシキミ栽培の説明、③アグロフォレストリーの説明で、実地ワークショップと GPS の使用方法以外は、当初の予定通りの内容で実施した。

また、研修実施後にその効果を測るためのテストを実施した。各地域とも 50~54 名の参加があり、いずれの地域でも受講前は約 9 割が八角栽培や有機栽培について知識がなかったが、受講後はほぼ全員がその知識を得、事業に対して前向きな反応が見られた。(結果の詳細は、別添「研修報告書」を参照)

植林については、既述のような状況から、植林ならびにその管理を

	<p>することも難しく、生存率の向上について（「8割まで上がる」）測定することができなかった。また、各地域で、アグロフォレストリー用のコーヒー、コンニャク、カルダモンの苗を育苗場に保管している。</p> <p>SDGsにおいては、本事業では地域責任者に女性も起用されていることに加え（ロイコー、ハッカ）、事業には老若男女すべての農民が参加している（Goal 5、16に相当）。また今期はまだ植林の実施に至っていないが、育苗場において八角をはじめとしたアグリフォレストリー促進のための育苗成、ならびに維持管理を行っており、環境保全、気候変動への貢献にも寄与している（Goal 13、15に相当）。</p>
<p>（４）持続発展性</p>	<p>育苗場のすでに2年ほど育成した苗については、引き続き安全を確保しながら植林できる土地を探しているところである。八角の発芽が成功しているミンダッ、ハッカ、ロイコーの育苗場では、新しい苗の育成管理を確実にを行うために、管理者の帰還の機会を覗いつつ連絡を密に取っていく。植林、新規の種子買い付け等の活動については、関係者の安全を第一に考え、現在ミャンマー国内の情勢改善を待っているところである。</p> <p>今後混乱が収まり次第、既存の植林地での生育・結実の確認を行いながら、研修を受けた農民に対しアグロフォレストリーの実践を促していく。また将来的に各地域をまとめる組合形成を支援し、統一した品質管理と製品の価値を上げるためのオーガニック認定の手続きを進め、差別化した価格設定、付加価値をつけた二次製品/三次製品の開発、それに伴うバリューチェーンの創出を行っていく。この度の混乱に巻き込まれた各地の農民に対して、新たにワークショップ等を通じてアグロフォレストリーを広げていく。</p>